

テーマ展「滋賀県指定有形文化財 指定記念 彦根藩筆頭家老木俣清左衛門家文書」展示作品リスト

No.	資料名称	員数	作成者	制作年	概要
1 初代守勝と井伊直政—彦根藩井伊家の形成—					
1	橘姓木俣氏系図并家紋橘巴菊水	1巻		江戸時代後期	敏達天皇から「第三十二」の楠木正成、「第四十一」の木俣守勝までを記した木俣家系図。
2	明智光秀書状	1通	明智光秀	天正6年(1578)	木俣守勝の比類なき働きに対し、光秀が褒美として50石を与える旨の書状。
3	木俣守勝・守安事績書	1冊		江戸時代	木俣家初代守勝、2代守安の事績を記したもの。 徳川家康が守勝や武田の遺臣を井伊直政の部下とした経緯を記す。
4	徳川家康自筆書状	1通	徳川家康	天正11年(1583)	徳川家康が信濃への出兵に際し、井伊直政に直政隊の一部を送るよう命じた書状。 直政隊の初陣を示す。
5	徳川家康書状	1通	徳川家康	天正13年(1585)	信州上田城の真田昌幸攻めに際し、徳川家康が井伊直政の家臣へ送った書状。 昼夜の辛労を称え、油断のないよう伝える。
6	徳川家康書状	1通	徳川家康	天正19年(1591)	九戸城攻めにより、井伊直政隊に多数の負傷者が出た旨の報告を、徳川家康が直政から受け、心配して直政に宛てた書状。
参考	関ヶ原合戦図	1隻	大館素雪	江戸時代後期	関ヶ原合戦の全容を描いた屏風。 合戦後の恩賞をめぐる事件を仲裁した木俣家初代守勝の功績を連想させる表現が見られる。
2 井伊家家中を束ねる—初代守勝・2代守安の躍動—					
7	木俣守長書状・井伊直孝御書等写	1通	木俣守長他	元禄11年(1698)	木俣家4代守長の書状などを書き留めたもの。 初代守勝が関ヶ原合戦後の恩賞をめぐる事件を仲裁した経緯を記す。
8	伊達政宗書状	1通	伊達政宗	慶長6年(1601)	井伊直政の体調を気にかけて、伊達政宗が徳川家康への仲介を直政に依頼した書状。
9	黒田長政書状	1通	黒田長政	慶長15年(1610)	黒田長政が木俣家初代守勝に宛てた書状。 長政が名古屋へ出向くも、今回は時間がなく、対面できない旨を記す。
10	福島正則書状	1通	福島正則	慶長年中(1596-1614)	福島正則が木俣家初代守勝に宛てた書状。 「兵部殿」(井伊直継カ)へ歳暮の祝儀を差し上げる旨を記す。
11	本多忠勝書状	1通	本多忠勝	慶長13年(1608)	伊賀上野城の引き渡しを終えた旨を、木俣家初代守勝が本多忠勝に伝えたことへの返書。 忠勝が守勝の働きを労う内容。
12	徳川秀忠御内書	1幅	徳川秀忠	慶長年中(1596-1614)	木俣家初代守勝が将軍徳川秀忠に松茸の漬物を献上したことへの礼状。 守勝が井伊家を代表して特産品を献上したとみられる。
13	木俣士佐守守勝武功紀年自記	1冊		慶長15年(1610)	木俣家初代守勝の一代記。 彦根城の築城に際し、守勝が金亀山への築城を徳川家康に訴えた様子を記す。
14	井伊直孝書状	1通	井伊直孝	江戸時代初期	井伊直孝が木俣家2代守安に宛てた書状。 井伊直政死後の家中騒動後も、直継の為に尽くすことを守安へ依頼する内容。
15	安藤直次書状	1通	安藤直次	慶長15年(1610)	徳川家康が病気の木俣家初代守勝を心配して送った薬の効能などを、家康近臣の安藤直次が伝えた書状。
16	文庫金銀取出証文	1通	木俣守安他	慶長19年(1614)	彦根城天守に納めた慶長10年(1605)の彦根藩の余剰金を、大坂の陣に際して取り出す旨を記した証文。

テーマ展「滋賀県指定有形文化財 指定記念 彦根藩筆頭家老木俣清左衛門家文書」展示作品リスト

No.	資料名称	員数	作成者	制作年	概要
17	本多政重書状	1通	本多政重	慶長19年(1614)	加賀藩の家老本多政重が木俣家2代守安に宛てた書状。 大坂の陣で負傷した守安の手の様子を案じる内容。
3 彦根藩筆頭家老 木俣清左衛門家					
18	井伊直澄知行宛行状	1通	井伊直澄	万治3年(1660)	井伊直澄が木俣家3代守明に知行7000石を与える領知の宛行状。
19	御家来中由緒書	1冊		明治2年(1869)	木俣清左衛門家を構成する家臣の足軽などの来歴を記した帳面。
20	御家中指物武器類絵図	2枚		江戸時代後期	木俣家に伝来する馬印や旗指物の図。 馬印については初代守勝・2代守安が戦場に持参したという伝承も記される。
21	服部南郭書状	1巻	服部南郭	江戸時代中期	儒学者・荻生徂徠の高弟・服部南郭が木俣家6代守貞に宛てた書状。 家老としての心得を記す。
22	木俣家御成格式書付	1通		江戸時代後期	井伊直孝以降、井伊家の歴代当主が藩主となって初めて彦根に国入りする際、 木俣邸へ立ち寄って下賜した物等の先例を記したもの。
23	朝鮮通信使東漕書	1通	洪東漕	寛永20年(1643)	朝鮮通信使の一行として来日した洪東漕が木俣家2代守安に宛てた書状。 守安に書跡などを送る旨の内容。
24	直筆御請其外御用留	1冊		享保19年(1734)	木俣家6代守貞が家老役を務めるにあたり、書状などを書き留めた帳面。 家老役を務めるの内容が具体的に見える。
4 幕末維新の中の木俣清左衛門家					
25	井伊直憲感状	1通	井伊直憲	元治元年(1864)	井伊直憲が木俣家11代守盟の禁門の変での働きを称えた書状。
26	長門・周防・石見・安芸間道細図	1鋪		江戸時代後期	広島城下から萩城下までの宿場や村々などの位置を記した絵図。
27	彦根藩家老用状	1通	在芸家老役中	慶応2年(1866)	広島に出陣した彦根藩の家老が木俣家11代守盟に宛てた書状。 井伊隊の一部をさらに西の玖波宿へ進めることを伝える内容。
28	彦根藩家老用状	1通	家老役中	慶応2年(1866)	彦根藩の家老が木俣家11代守盟に宛てた書状。広島の様子や、 長崎で購入する西洋銃について記す。
29	木俣守盟書状	1通	木俣守盟	慶応2年(1866)	広島に駐屯する木俣家11代守盟が同地に出兵中の家老に宛てた書状。 兵の士気を維持するため、宮島遊覧などを提案する内容。
30	井伊家家扶書状	1通	井伊家家扶	明治33年(1900)	木俣家12代畏三を華族に列し、男爵の爵位を授けられたことを伝える書状。
31	木俣畏三辞令	1通	宮内大臣子爵田中光顕	明治33年(1900)	木俣家12代畏三が従五位に叙された辞令。
32	金亀町木俣畏三屋敷外観写真	1枚	彦根佐和山下精美館	明治時代～昭和初期	木俣家12代畏三の屋敷外観写真。

※いずれも彦根城博物館所蔵。

※参考は木俣清左衛門家伝来資料(彦根市指定文化財)、それ以外は全て木俣清左衛門家文書(滋賀県指定有形文化財)。

作品解説

1 明智光秀書状 1通 (作品リストNO. 2)

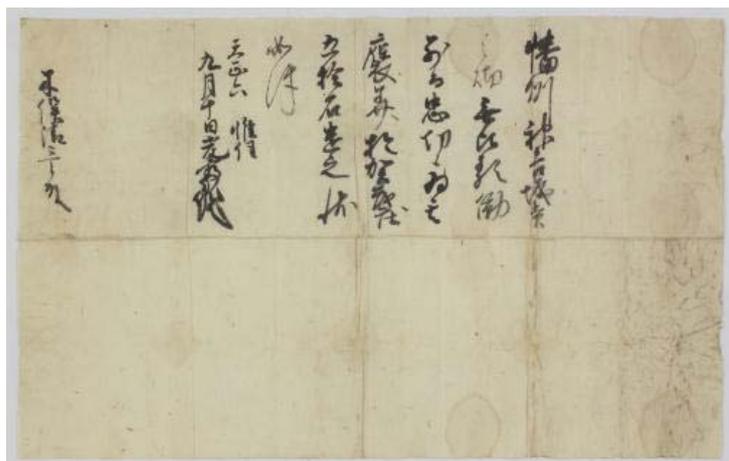
滋賀県指定有形文化財

天正6年(1578)

縦 26.8cm 横 43.0cm

当館蔵 (木俣清左衛門家文書)

木俣清左衛門家初代守勝は、三河国岡崎(現愛知県岡崎市)の出身で、岡崎城主徳川家康の小姓(主君に近侍し、身の雑事や警護にあたる役職)を務めました。一時期家康のもとを離れ、明智光秀に仕えました。本史料は、その時期のもので、織田信長の命で光秀が神吉城(現兵庫県加古川市)を攻め落とした際、光秀のもとで比類無き活躍をした守勝を賞して、光秀が守勝に50石を与える旨を伝えたものです。この後、守勝は家康に召し戻され、天正10年(1582)、家康の命で若き井伊直政を支える家老となります。



2 徳川家康自筆書状 1通 (作品リストNO. 4)

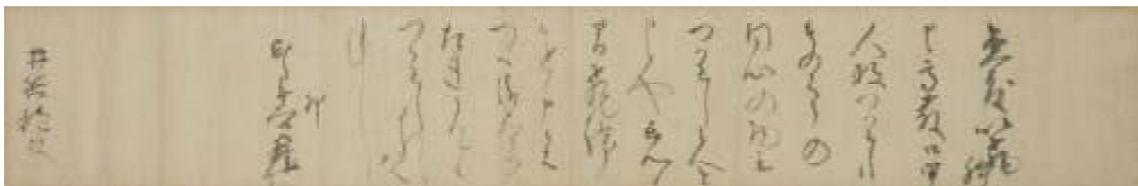
滋賀県指定有形文化財

天正11年(1583)

縦 15.8cm 横 97.6cm

当館蔵 (木俣清左衛門家文書)

天正10年(1582)、徳川家康は先に滅びた武田の旧臣を配下に加えると、その多くを井伊直政の部下とし、直政を侍大将(部隊の長)とする部隊を編制します。本史料は、天正11年、家康が小田原城主北条氏直との争いの中で信濃へ出兵する際、直政隊の一部を高遠口(現長野県伊那市)へ派兵するよう直政に命じたものです。この時、直政自身は出陣しなかったものの、木俣清左衛門家初代守勝が武田の旧臣らを率いて高遠口へ向かったとされ、これが直政隊の初陣となりました。



3 文庫金銀取出証文 1通 (作品リストNO.16)

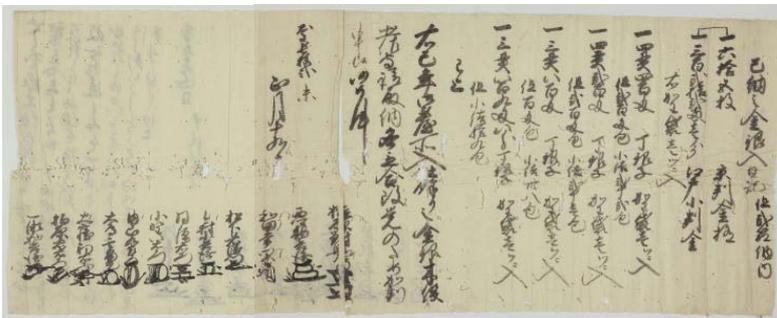
滋賀県指定有形文化財

慶長19年(1614)

縦 33.5cm 横 85.5cm

当館蔵 (木俣清左衛門家文書)

慶長10年(1605)の彦根藩の余剰金(井伊家の年貢米収入の約1割程である米4000石に相当する貨幣)を、慶長12年に木俣清左衛門家初代守勝が彦根城天守に納めた後、慶長19年の大坂冬の陣に際して、井伊直孝の命でその一部を取り出したことを記した証文。この証文が作成された時期は、豊臣家が大阪にあり、戦争の火種がくすぶっていました。この史料からは、戦時体制下の緊迫感が伝わってきます。



4 木俣家御成格式書付 1通 (作品リストNO.22)

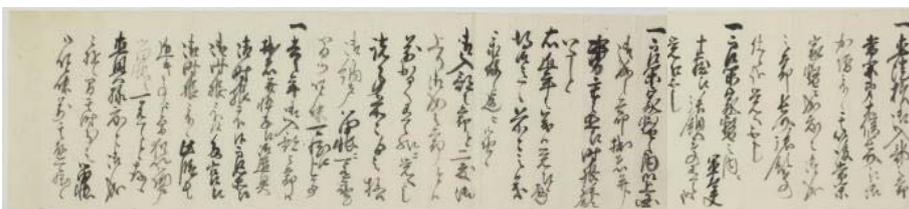
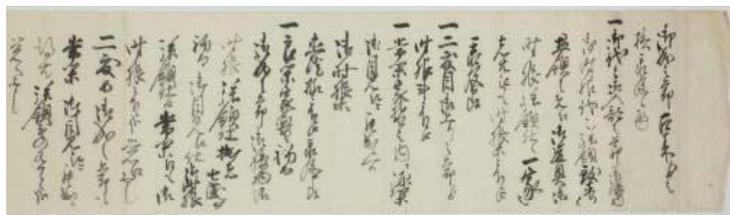
滋賀県指定有形文化財

江戸時代後期

縦 16.4cm 横 132.0cm

当館蔵 (木俣清左衛門家文書)

井伊家歴代当主は入部(当主となった後に初めて国入りすること)の際、木俣清左衛門邸に御成(立ち寄ること)し、木俣家ではそれを受け入れることを慣例としました。これは、慶長19年(1614)の大坂冬の陣の後、井伊直孝が兄の直継に代わって井伊家当主となって入部した際、兄の家族を憚って御殿に入らず、木俣邸に入った先例に由来するもので、木俣家が固有に務めた役割の一つです。本史料には、歴代当主の入部に際して、腰物や時服などを拝領した先例が記されています。



5 彦根藩家老用状 1通 (作品リストNO.27)

滋賀県指定有形文化財

慶応2年(1866)

縦 15.2cm 横 60.4cm

当館蔵 (木俣清左衛門家文書)

幕末期、幕府は長州藩と対立し、長州藩を攻撃しました(幕長戦争)。彦根藩は幕府軍の一員として広島に本陣を置き、木俣清左衛門家11代守盟は廿日市(現広島県廿日市市)に陣を置きました。本史料は、広島に在陣する家老が守盟に宛てたもので、廿日市の部隊の一部を、さらに西の玖波宿(現広島県大竹市)へ進軍させることになった旨を伝えたものです。この2ヶ月後、玖波宿の南西にある小瀬川(長州藩と広島藩の国境)で激しい戦闘が始まりました。

